

随 想

卒業感想

徐 知行

平成11年3月25日、名古屋大学大学院医学研究科の学位授与式で、博士学位記を取りました。とても嬉しいです。日本に来てから七年目になりましたが、長い間、アルバイトをしながら勉強をしてきました。中国ではなかった人生を経験しました。自分の将来の大変貴重な財産になったと思います。

1993年4月、私は憧憬と不安を持って東京に来ました。憧憬は私が日本で人生の転換点として成功したいということでした。不安はやはり日本語が全然わからないこと、勉強はできるか、また中国で日本のアルバイトは大変と聞いたことがありましたが、それまでアルバイトをやったことなかった私はとても心配でした。日本に来て一週間してから、中国で医者だった私は、東京の病院で看護助手としてアルバイトを始めました。バイトしない日は大学の研究試験も始めました。日本語がわかりませんし、医者から看護ヘルパーへ地位の転換にもなかなか慣れませんでした。バイト先は寮から一時間半かかり、通勤電車もすごい混雑で大変疲れました。あの時は中国に帰ろうかと何回も考えました。しかし大学の先生達はとても優しくいろいろ教え励まして頂きました。私はがんばりました。やはり日本語を勉強しなければ、仕事や、生活もできないと思いました。毎晩寮に戻ったら、日本語教科書を暗記しながら、テープを聞き、日本語の勉強を進めました。日本に来て約八ヶ月、日本語が分かるになりました。会話もちよっとできるようになり、とても嬉しかった。

一年がすぐ過ぎましたが、私の夢を実現するためには大学院に入るしかありませんでした。しかし私立大学の学費は高いので、国公立大学院を探すことを始めました。先生の秘書さんが丁寧に日本語文書を作ってくれました。しかし、いくつかの手紙を出しましたが、なかなか返事は来ませんでした。ビザ期間が切れる日が近づきました。その時、名古屋大学医学部付属病院医療情報部の山内一信教授からの電話がありました。先生の誘われるお話を聞いて、暖かさを感じました。先生と東京で一回会ったとき、名古屋大学大学院医学研究科に入

学することを決めました。そして、山内先生が私の在日保証人になりました。

日本の新学年は四月から始まります。私は一度中国へ戻り、そして一九九四年の五月から名古屋に来て、新しい生活に挑戦しました。情報学は初めて接触しますから、なかなかわかりません。とりあえずパソコンの勉強からはじめようと思ひまして、早速中古パソコンを買い、いよいよ勉強を開始しました。始めたときは大変難しかった。放射線科の広田英輝先生、医療情報部の水野智先生、池田充助教授、特に山内先生にはやさしくて教えていただき、忘れません。山内先生のご指導を頂いて、遠隔医療というこの新しい領域に入りました。この三年間、山内先生と一緒に、いくつもの遠隔画像伝送実験を実施しました。研究結果は日本遠隔医療研究会、日本エム・イ学会、第三回国際遠隔医療学会、MEDInfo98など国内、国際学会またいくつかの地方会で発表し、好評を得ました。毎回論文原稿を出す前に、山内先生は何回一文字一文字をチェック頂きました。先生自身の仕事もすごく忙しいのですから、私はとても感動しました。特に卒業論文の訂正ですが、池田先生と山内先生は更に十回以上も繰り返して訂正頂きました。先生達の熱意に私は心から感謝します。

一方、私は私費留学生ですから、収入はありません。アルバイトをしなければなりません。休みの日に、十種類以上のバイトをしました。バイト中不愉快なこともよくありましたが、私は自分の博士号を取る目標のために我慢をしました。それは先生また日本の友達の熱意と比べ、小さな事柄だと思います。つまり、私の日本留学は“得”が“失”より大きかったのです。

今年の桜の咲く季節に、私の留学の目的が成功をしました。日本の留學生活のいろいろをずっと忘れません。また、東京慈恵会医科大学の天木嘉清教授、横浜清子さん、名大医療情報部の山内教授、池田助教授、情報文化学部自然情報学科の佐々木教授、またほかの大学の先生、友達に深謝致します。

(名古屋大学大学院医学研究科博士課程)